

## 2016年度 第一部商経学科ゼミ募集要項

朝日ゼミ	
基本テーマ	ブラック企業問題、不安定雇用問題、女性労働問題、労働時間問題、貧困・格差問題など、日本の企業社会の問題点と解決方法を考えます。
ゼミ運営方法	文献研究を中心としたオーソドックスなゼミ運営です。文献は、相談して決めます。2年生の夏に、卒論テーマ報告合宿を行います。希望があれば、国内外の旅行、調査を行います。
就職指導の方針	1年生の12月に「就職対策合宿」を予定しています。進路の相談・指導は丁寧。
卒論の要件	原稿用紙30枚(12,000字)以上を要件とします。研究対象は、各自の選択で。
学生への要望	朝日ゼミは、人々の労働・生活問題に心を寄せ、それを解決するために、学習し、調査し、討論し、考えることを特徴としています。想像力豊かで、ヒューマンな学生を求めます。
その他	代々、イベントに集団で取り組むことが好きなゼミです。ノリのいい人、やる気のある人、責任感の強い人を歓迎します。

内田ゼミ	
基本テーマ	金融の仕組みを活用して、社会の課題の解決策を考える 世の中をもっとよくしていくために、金融が果たせる役割は何かを研究していくゼミです。
ゼミ運営方法	演習Ⅰでは、前半で、社会や地域が抱える課題を金融の手法によってどのように改善・解決していけるのか、具体的な取り組み事例やアイデアについて研究します。後半では、ゼミ生がグループごとに取り組む課題テーマを決め、その解決策を考え、議論していきます。 演習Ⅱでは、引き続き、課題テーマについて議論を深め、具体的な解決策として論文にまとめ、外部の学生論文コンテスト(日本銀行、財務省、信託銀行協会、野村総合研究所などが主催する学生論文コンテスト)に応募します。2015年度は、介護士不足を金融の仕組みを活用して解決するアイデアをまとめ、信託銀行協会主催の学生論文コンテストに応募すると同時に、鹿児島市が主催した「鹿児島市の5カ年総合計画策定のための学生会議」に参加し、鹿児島市の担当者に対してアイデアの発表を行いました。 卒業研究では、演習Ⅰ・Ⅱの成果をより深め、卒業論文に仕上げしていきます。
就職指導の方針	企業での経験をもとに、就職活動のあらゆる場面で幅広く相談に乗り、丁寧な指導を行います。
卒論の要件	テーマは、演習Ⅰ・Ⅱで学生論文コンテストへの応募に向けて設定したテーマが基本になります。分量はA4(40字×40行)で10ページ(図表を除く)以上を目安とします。
学生への要望	以下に該当する学生の応募を希望します。 ①金融に関心を持ち、社会の課題を解決するために研究する意欲がある人。 ②学生論文コンテストに応募するために、ゼミでの研究に主体的・積極的に取り組むことができる人。 ③ルールやマナーを守り、他人と協調して行動できる人。
その他	世の中の課題をどう改善していけるかを考えたい人であれば、金融論の講義を履修していなくても応募可能です。履修していないことがゼミでの研究で不利になることはありませんが、演習Ⅰが始まる前の夏休みに金融の基礎について自分で勉強しておくことを勧めます。 ゼミ募集要項について、さらに質問などがあれば、研究室(3号館411研究室)まで直接聞きに来て下さい。来室希望の人は、予めメールで日時の予約をしてもらえれば確実です。 メールアドレス: uchidam@k-kentan.ac.jp (uchida の後[m]) 指導教員のプロフィールは、県短ホームページを参照して下さい。

岡田ゼミ	
基本テーマ	日本全体の人口減少と大都市圏への人口移動が進む中で、地方創生が喫緊の課題となっております。これから自分が就職して住む地域も、同様な問題を抱えていることが多いでしょう。しかし、そこに住み続けるためには、地域の問題を見つけ、解決策を探り、住みたいまちづくりを意識しながら、仕事をするのが重要であると考えます。 このゼミでは「地域経済の活性化」を基本テーマとし、常に原因を追求し、自ら発想する力をつけることを目指します。
ゼミ運営方法	演習Ⅰでは基本テーマに沿った関心のある文献を各自で見つけて発表し、皆で議論します。これを踏まえて、春休みには市役所等を訪問して、地域の課題と取り組みの実態についてヒヤリングを行い、実際にまちを歩いてみたいと考えております。演習Ⅱでは卒業研究のテーマを決めることを目的に、各自で文献を見つけて発表し、皆で議論します。 卒業研究では各自が決定したテーマに沿って、地域調査をし、地域の問題点を見つけ、有効な解決策を考えます。
就職指導の方針	どのような職種を希望する場合でも、可能な範囲で相談にのります。しかし、公務員を志望する場合には筆記試験がほぼ必須です。これについては各自で早目にしっかり勉強して下さい。
卒論の要件	基本テーマに沿っていけば何でも構いません。 12,000字以上を要件とします。
学生への要望	ルールを守ること。 協調性をもつこと。 ゼミの時間は前向きに思考すること。
その他	質問があればメール(okada@k-kentan.ac.jp)をするか、研究室を訪ねて下さい。

岡村(俊)ゼミ	
基本テーマ	ゼミのテーマは「情報化を中心としたシステムと人間の関わり合い」です。コンピュータやネットワークを中心としたモノ、社会、システムが人間とどのように関わっているのか明らかにし、快適かつ効率的な(職業)生活をしていこうということです。簡単に言うと、「情報を活用することで、ラクして、いい仕事しよう」となります。 心理学やエコに関して学ぶこともありますが、あくまでも(働くことを含めた)人間の生活からの視点で考えていきます。 岡村(俊)はコンピュータの専門家でもあります。コンピュータをバリバリやりたいならこのゼミは1つの選択です。一方、「コンピュータは苦手」という学生が選択してもかまいません。 どうして苦手なのか、コンピュータのどこが悪いのかを知ることができるかもしれません。
ゼミ運営方法	基本的に「演習1」と「演習2」は「卒業研究」に向けての準備だと考えます。卒業研究は「勉強」ではなく「研究」なので、世の中に役に立つ新しい事実を自ら発見することが望まれます。また、学習と実益を兼ねて、学内あちこちのIT環境改善(パソコンや周辺機器の設定とか)をゼミの中でやることもあります。 ゼミの運営は基本的に学生にまかせます。学生の運営を教員がサポートする、というのが理想です。工場見学など学外での活動も、できる限り学生の希望に応じていきたいと考えてます。
就職指導の方針	就職先、進路、書類の書き方などできる限り、アドバイスはします。こちらからなにか強制することはありませんが、たまに活動状況に関して確認することはあります。指導や助言はしますが、進路選択・就職活動はあくまでも学生自らの責任において行うものであると考えています。
卒論の要件	ゼミのテーマから大きく外れなければ、内容、字数ともに自由です。動画などのデジタルデータでもかまいません。各自のテーマは演習を進める中で自分で決めていくこととなります。内容によっては複数名での執筆も可とします。内容に応じて、実地調査やアンケート調査、実験なども含めることもあります。
学生への要望	自分の考えを持つと同時に、その考えを表現する(相手に伝える)ことを望みます。基本的にゼミ生を自立した「おとな」として扱います。「おとな」になれない学生は、さくっと見捨てるかもしれません。
その他	何か質問があれば、okamura@biz-kpc.netにメールをするか、研究室(2号館1階)を訪ねてください。

2016年度 第一部商経学科ゼミ募集要項

岡村(雄)ゼミ	
基本テーマ	<p><b>会計を実践的に学ぶ</b></p> <p>会計は「事業の言語」といわれています。企業の内外の人々がコミュニケーションの手段として会計を利用しているからです。言い換えれば、ある状況における問題の発見、認識、そして解決方法を議論する際に、会計言語は必要不可欠な知識といえます。</p> <p>本演習では、ゲーム、模擬店経営、企業調査等のフィールドワークを通して簿記・会計を実践的に習得することを目指します。</p>
ゼミ運営方法	<p>演習Ⅰ：テキストの輪読、模擬店経営(学園祭)による商いと帳簿つけの実践</p> <p>演習Ⅱ：テキストの輪読、企業調査を通して研究主題を設定し、卒論の青写真を描く</p> <p>卒業研究：毎週、研究の進捗を確認し、成果を卒論としてまとめる</p>
就職指導の方針	書類の書き方、面接での受け答えの仕方等、できる範囲でアドバイスします。
卒論の要件	<p>研究対象：基本テーマの範囲</p> <p>字数制限：なし</p>
学生への要望	<p>学生生活は短いです。なにごとにも貪欲にとり組みましょう。コンパ・合宿・旅行を企画できるかたを歓迎します。昨年は京都まで企業調査に行きました。今年は九州各地への調査旅行を予定しています。</p>
その他	興味がある方は研究室(3号館4階)を訪ねてください。演習Ⅱの見学も歓迎します。

倉重ゼミ	
基本テーマ	<p>このゼミでは、「効率化」をキーワードとするコンピュータを用いた意思決定について学んでいきます。ここでコンピュータを用いるとは、プログラミングを行ったり、エクセルをちょっと高度に利用してみたり、特殊なソフトを使うことです。皆さんも普通の生活の中で「もう少しこうしたら、こうなったら、もっと効率的になるのに」とか思ったことはありませんか？それをモデル化し、その解決方法を考えていきます。</p>
ゼミ運営方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演習ⅠとⅡでは、エクセルを利用したプログラミングやデータ解析、シミュレーションなどを学んでいきますが、それ以外にも人前で話すことや思考力を養う課題にも取り組んでもらいます。また、最初のうちは教員主体で行いますが、慣れてくれば学生主体での運営を考えています。</li> <li>・卒業研究では、基本的に自分が興味を持てるテーマで卒論を書いてもらいます。</li> </ul>
就職指導の方針	<p>私に”できる範囲内”でのお手伝いはさせていただきます。特に間接的な就活支援になりますが、SPIの非言語処理問題やPC検定への質問・相談は歓迎します。また、面接練習用にビデオカメラなども準備しています。これらは希望する学生さんのみを対象にするもので、こちらから無理強いすることはありません。</p>
卒論の要件	<p>テーマなどは自由で、複数名で取り組むことも可能とします。分量に関しては、その内容によります。</p>
学生への要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少なくとも現段階でプログラミングなどコンピュータを扱うことに関心があること(経験はまったく問いません)。</li> <li>・チームでの活動を基本とするので、最低限度の協調性は必要かと思えます。</li> <li>・将来、情報関連分野に就職を考えている人はもちろんですが、ワンランク上のエクセル使いを目指す人を歓迎します。</li> <li>・後期開講予定の統計学を受講してください。</li> </ul>
その他	<p>このゼミは、以下のような方が向いている気がします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・数字を扱うパズルが好きな人(得意である必要はありません)</li> <li>・「県短の敷地内に何匹の蟻がいるのか推測しなさい」みたいな課題を楽しめる人</li> </ul> <p>※これはフェルミ推定と呼ばれるもので、求めることが困難な数値を手に入る情報をもとに推論することです</p>

瀬口ゼミ	
基本テーマ	<p>企業と市場、企業間競争、企業と社会について考察する。</p> <p>私の研究テーマは、「多国籍企業における市場戦略」ですが、それに縛られる必要はありません。経営学やマーケティング論などに少しでも興味があれば歓迎します。具体的には、企業間でどのような競争が展開されているか、なぜ売れる商品と売れない商品があるのか、企業は社会に対してどのような影響を与えるのか、などについて考えていきます。</p> <p>詳細については参加者の要望を聞いてから決定しますが、多国籍企業論、経営戦略論、企業の社会的責任論(CSR論)、マーケティング論、ブランド論、文化産業論、消費社会論、のいずれかが中心になります。このような分野に興味がある学生さんにおすすめします。</p> <p>過去の卒業生の多くは、卒論のテーマとして、「ディズニリーゾート」、「ユニクロ」、「ルイ・ヴィトン」、「オタク産業」、「K-POP」、「健康食品産業」など、自分が興味を持っている具体的な企業や産業を取り上げました。</p>
ゼミ運営方法	<p>・演習1では、ゼミ生の希望を聞きながら、以下の2つの方法から選択する予定です。</p> <p>(1)ゼミで共通の本を決め、輪読を行う。</p> <p>(2)各自で興味のある本を1冊選択し、交替で発表する。</p> <p>いずれの場合も、以下の手順で進めていきます。</p> <p>①文献を決定し、担当者を割り振る。②担当者は、自分の担当箇所をレジュメにまとめ、当日ゼミ員に配布する。③報告する際は、レジュメに基づきながら担当した箇所の内容をゼミ員に説明し、論点を提示する。④他のゼミ員は、報告者への質疑や提示された論点について意見を述べる。</p> <p>・演習2では、演習1での学習状況を見極めながら、応用文献の発表または卒業研究に向けたテーマ設定などを行う予定です。</p> <p>・卒業研究では、卒業論文の執筆がメインになります。各自のテーマに基づき、研究内容や進捗状況などを随時報告してもらいます。</p> <p>・学内解放(学祭)への参加、ゼミ合宿、工場見学、食事会などの活動も考えています。ただし、こちらから無理に計画することはありません。皆さんから積極的に希望を伝えてほしいと思います。</p>
就職指導の方針	<p>希望者に対して、企業研究、履歴書の書き方、面接対策などを出来る範囲でお手伝いします。ゼミ以外の時間でも、希望があれば時間を取って、個別に相談に乗るつもりです。</p> <p>また、就職活動に必要なとされる能力(論理的に考える、自分の考えを持つ、自分の考えを相手にはっきりと伝える、相手の話を聞く、質問の意図を読み取る、など)は、ゼミ活動のなかでも養成できると考えます。したがって、普段のゼミ活動においても、就職活動直前になって困らないように、前述した能力を身に付けられるよう指導していきます。</p>
卒論の要件	<p>卒論のテーマは、私が指導可能な分野であれば、何でも構いません。</p> <p>テーマ設定や書き方などについては、ゼミのなかで具体的に指導していきます。</p> <p>文字数は、12,000字以上を予定しています。</p>
学生への要望	<p>現時点での知識や能力などは一切問いません。また、一人ひとり忙しさや力を入れていることが異なるでしょうから、ゼミ中心の生活を望むことはしません。</p> <p>しかしながら、ゼミに参加し、ともに学ぶにあたって、以下の点を守ってほしいと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別な理由が無い限り、欠席をしないこと。欠席する際は必ず事前に連絡をし、無断欠席をしないこと。</li> <li>・ゼミのテーマや本について決める際に自分の希望が叶わなくても、決まった以上は一生懸命取り組むこと。</li> <li>・自分が担当すること(担当する章の報告など)には責任を持つこと。</li> <li>・自分が担当する章でなくても、きちんと文献を読み質問を考えてくること。</li> <li>・「黙っていても何かしてくれる」のではなく、「自分たちでゼミをつくっていく」気持ちを持つこと。</li> </ul>
その他	<p>ゼミについて質問があれば、seguchi@k-kentan.ac.jpまでメールしてください。</p>

宗田ゼミ	
基本テーマ	<p>【基本テーマ】「航空会社の経営分析」</p> <p>【概要】日本の航空会社を研究対象として分析します。特に、3大アライアンスに加盟している航空会社やLCCを対象とします。演習1では、テキストだけではなく、事例研究やゲームを通じて経営・会計を学びます。</p> <p>演習Ⅰ：簿記論の学修を前提として会計学の基礎を学ぶ。</p> <p>演習Ⅱ：財務諸表を読む技術を身に付ける。</p> <p>卒業研究：演習ⅠおよびⅡにおける学修をもとに卒業論文の作成を目指します。</p>
ゼミ運営方法	<p>演習Ⅰでは、航空会社の事例分析を行いながら、会計学の基礎について勉強していきます。演習Ⅱでは、公表された財務諸表(航空会社の公表したもの)を用いて、読み解く練習を行います。</p> <p>テキスト等は、第1回目～2回目のゼミにおいて学生の皆さんと話しながら決定します。</p> <p>ゼミ運営の基本方針は以下の通りです。</p> <p>「勉強の方法を学ぶ」、「知識・技術の習得」、「交流と協調」、「よく遊び、よく学ぶ」</p>
就職指導の方針	<p>毎年お断りしているのは、履歴書、エントリーシートの代筆、面接等での替え玉受験です。これ以外は、皆さんからのリクエストに可能な限りお答えします。</p>
卒論の要件	<p>会計学の領域に関する卒業論文を作成していただきます。</p> <p>字数制限は特にありません。詳細なテーマ等は過去の学生論集を参照してください。</p>
学生への要望	<p>現在の知識や技術ではなく、次のような学生の参加を望んでいます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶をしたり、時間を守ったりするなど、ルールやマナーを守ることができる学生。</li> <li>・勉強に限らず、自らの目標もしくは目的に向けて学生生活を送っている学生。</li> <li>・ゼミ生相互間や教員とゼミ生間との親睦・交流などを目的としたゼミ活動(合宿やコンパ、ゼミイベントなど)、大学行事(体育祭、大学祭など)に積極的に参加できる学生。</li> </ul>
その他	<p>【担当者自己PR】</p> <p>担当者のプロフィール等に関しては、宗田健一会計研究室のホームページ(<a href="http://sota.labo.ac">http://sota.labo.ac</a>)で確認してください。</p> <p>連絡先アドレス:sota@k-kentan.ac.jp</p>

2016年度 第一部商経学科ゼミ募集要項

竹中ゼミ	
基本テーマ	<p>テーマとしては、「企業と人との良好な関係について考える」とします。                      企業と関わり合いを持って生活しなければ行けない私たち。                      企業とつき合うなら、うまくつきあっていく方がよい。                      うまく付き合っていくために、知っておいた方がよいことは何か、考えてみましょう。                      当初は、テキストとして「即効マネジメント」(海老原嗣夫著)を取り上げるつもりですが、ゼミの当初の内容は、実際に参加するゼミのメンバーで、テーマについて一緒に確定するという話し合いを行っていきたくとも考えています。                      その際には、できるだけ参加する人が興味を持てるテーマを選んでいきたいと思っています。</p>
ゼミ運営方法	<p>ゼミは、基本的には学生が中心になって活動するものです。日頃のゼミは、与えられたテーマを分担して、決められた発表者が作成したレジメ(その日の発表内容をまとめたもの)を材料にして、みんなで議論するという方式でゼミを進めていきます。                      また、いろいろな事件や出来事が起これば、それについても議論をしていこうと考えています。                      ゼミ合宿や工場見学等はこれまであまり実施していませんが、皆さんの要望があれば考えていきます。</p>
就職指導の方針	<p>就職は皆さんにとっての大きなテーマです。できるだけサポートはしていきたいと考えています。履歴書作成や志望動機、自己PRなどのように書けばよいかについては、アドバイスしてきました。また、具体的な求人情報は学生課にありますので、そこの連携も必要です。                      ただ、就職活動は精神的なタフさが要求されることもあり、就職活動に対する意欲がわからないなど、根本的な問題に直面することも多くあります。そのような場合、どのようにしたらいいか簡単に答えは出せないのですが、一緒に考えていくことができたいと考えています。</p>
卒論の要件	<p>卒論については、特別な条件は設けませんが、字数については、目安としてA4用紙10枚程度が必要です。テーマについては、必ずしもゼミで取り上げたテーマでなくても構いません。自分で関心があるテーマが見つければ、それについてじっくりとめてくれればOKです。2年生の演習2の時期に、相談しながらテーマや方法を決めていきたいと考えています。</p>
学生への要望	<p>ゼミは少人数で運営されるので、一人一人の発言や学生自身が作成するレジメが大切になってきます。そのためには、それぞれの人が何を考えているのか、言葉や文字にして他の人に伝えていくことが必要になります。また伝える方法にまだ慣れていなければ、それを練習していかなければ上手にはなれません。このようなことを理解してくれる学生を望みます。</p>
その他	<p>何かゼミについて質問があれば、takenaka@k-kentan.ac.jpまでメールで連絡、もしくは直接質問してください。</p>

野村ゼミ	
基本テーマ	<p>売れる秘密、儲かる秘密                      ～車でもiPhoneのように成功できるか?～</p>
ゼミ運営方法	<p>・『トヨタ快進撃の秘密』をテキストに、「人工知能を活用した自動運転ー無人運転」、「燃料電池」、「新興国での生産」などを学びます。                      ・モノが売れる秘密は「お客様のニーズを創造する」プロダクトアウトと、「お客様のニーズに対応する」マーケットインの二つのアプローチがあります。このうち、プロダクトアウトについては文献から学びます。もう一つのマーケットインについては、主な新興国市場であるタイ、インドネシア、南アフリカ、アルゼンチン等を実際に訪問して考えます。                      ・タイ、インドネシア、インド、南アフリカ、アルゼンチンの訪問はLCCとAirB&amp;B等を活用すれば5カ国を3週間25万円程度(航空券+宿泊費+現地行動費の合計)で可能です。プランを練りに練って、工夫に工夫を重ねた手配を行えば20万円を切れると思います。訪問先をタイ、インドネシアの2カ国に絞れば1週間合計5万円以下も夢ではありません。「儲かる秘密」はコストの安い新興国で現地生産することにもありますので、「新興国」の「安さ」を実感してもらえればと思います。                      ・現地調査は1年生の3月に実施することが多いです。近年では、行先別に複数のグループに分けて実施しています。                      ・野村ゼミでは、例年、この海外調査をゼミ生が自分達で企画し、手配(予約)して、自分達だけ(先生の引率なし)で実施してきました。これまで20年ほどの間、ほぼ毎年実施し、累計300人以上が参加し、病気、事故ともになく無事に終わることができました。                      ・海外調査への参加は任意(義務ではない)ですが、参加する意欲がある人を歓迎します。</p>
就職指導の方針	<p>ゼミの卒業生が県内の主な企業にいますので、志望企業別に卒業生と相談しながら進めていきます。</p>
卒論の要件	<p>コピペでなく、自分で調べたこと、自分で考えたことを写真、図表を含めてA4で15枚程度書くこと。卒論の要件はこれだけです。</p>
学生への要望	<p>学生時代に一生忘れられない思い出を創る、そんな夢を持ってほしいと思います。</p>
その他	

疋田ゼミ	
基本テーマ	<p>テーマ【鹿児島島の戦中・戦後史】</p> <p>戦後70年。鹿児島島の戦中・戦後を知る人たちに、直接話を聞くチャンスも残り少なくなってきました。講義では日本や世界の政治・経済・社会の歴史を学ぶチャンスはありますが、鹿児島が、そして鹿児島を生き延びた人たちが、その時代をどう生きて、どんな選択をしてきたのかを学ぶ機会は少ないと思います。</p> <p>今年の疋田ゼミは、鹿児島島の戦中・戦後史を、手当たり次第知って楽しむところから始めます。それによって、これから鹿児島島の街づくりにどうコミットしたいか夢を膨らませてもらえればと思っています。</p>
ゼミ運営方法	<p>「演習Ⅰ」では、戦後直後の鹿児島島を復興期から高度成長期を、当時活躍した人たちの自伝や、南日本新聞社編『かごしま20世紀』などをテキストに知ることから始めます。「演習Ⅱ」では、70年代以降90年代まで、『卒業研究』では、鹿児島島の戦中・戦後史の中でそれぞれが興味を持ったテーマに絞って掘り下げて卒業論文に仕上げます。</p> <p>ゼミでは、それぞれの項目ごとに報告担当を決めて報告してもらい、議論します。</p> <p>本を読むだけでなく、できるだけ直接話を聞く機会を作りたいと思います。</p> <p>またゼミのリクレーションなどの活動は、要望があれば最大限サポートして一緒に楽しみたいと思います。</p>
就職指導の方針	<p>就職は県短生にとって大きな関心事だと思いますので、私ができるサポートは最大限していきたいと思っています。編入試験も含め、自己PRや志望動機、面接へのアドバイスはこれまででもやってきましたし、具体的な求人情報の提供や履歴書添削を行なう学生課との橋渡しもやっていきたいと思っています。</p> <p>、1年の終わりころには具体的な活動が始まる短大生にとって、就職活動は、その流れに乗れる素直さと、失敗してもそれを糧にできる精神的なタフさが要求されるようです。ゼミでは、その素直さとタフさを養えるようサポートしたいと思っています。</p>
卒論の要件	<p>12000字以上でテーマは基本的に「鹿児島島」に関わる歴史という範囲で自由とします。</p> <p>『卒業研究』が始まるまでに、興味のあること、探求したいテーマを見つけ、納得がいくものを是非書いてください。論文の様式、書き方について指導、添削します。</p>
学生への要望	<p>講義ではなくゼミナールなので、他人の話を聞き、自分の思いを自分の言葉で語れる人、あるいは、そうありたいと思っている人に来てほしいです。特に、ゼミの欠席などについてはちゃんと連絡をするなど、最低限のマナーは守ってほしい。</p> <p>それと、ゼミの時はゼミのテーマに真剣に取り組む、遊ぶ時は思いっきり楽しむ、というメリハリをつけられる人。あるいはそうありたいと思っている人を希望します。</p>
その他	<p>疋田についてもう少し知りたいと思う人は研究室(3号館4階)を訪ねてください。ただし、メールで(hikita@k-kentan.ac.jp)アポをとってから。またメールでの質問も受け付けます。</p>

福田ゼミ	
基本テーマ	<p>国際社会に生起する様々な事象(紛争、開発、市民社会論など)について、国際関係論的な視点から分析していきます。ニュースなどについて自分なりの意見をもてることを最終的な目標とします。</p> <p>と同時に、自分たちが住む鹿児島島について自分たちの足で調べていることも大きな柱にしたいと思います。</p>
ゼミ運営方法	<p>演習1では、新聞の社説の読み比べをして、社会の様々な問題に対してどのような意見があるのかを見ていきたいと思います。そしてその問題について議論したり、レポートを作成してもらいます。</p> <p>演習2では、国際関係論に関する基本的な文献の輪読をして、順番に報告してもらいます。同時に、順番を決めて毎週新聞記事についての報告してもらいます。演習2の途中から各自の興味のあるテーマについてまとめてもらいます。卒業研究では、各自の卒論のテーマについて報告してもらおう予定です。</p> <p>課外活動(参加は任意で成績には関係ありません)</p> <p>昨年度は沖永良部島にフェリーで行って、マンゴー農家さんや県庁の職員に対してアボカド栽培の魅力をプレゼンしてきました。また、商店街グルメグランプリの枕崎チームのお手伝いに、枕崎、鹿児島アリーナ、国分に行ってきました。枕崎チームは準グランプリでした。</p> <p>今年もこうした課外活動を行いたいと思います。</p>
就職指導の方針	<p>小手先の面接技術などを習得するよりも、学生時代にしかできない体験、他の人と違った経験をするを勧めます。</p>
卒論の要件	<p>「基本テーマ」に関するテーマについての卒業論文を執筆してもらいます。分量は、1万2千～1万5千字程度。</p>
学生への要望	<p>自分で考えて、自分で行動していこうというタイプの積極的な方を歓迎します。</p> <p>遅刻や欠席などをしてほしくないなど、あたりまえのことをあたりまえに行える学生を希望します。</p> <p>例年、福田ゼミには、一人で入ってくる学生がほとんどです。希望する学生は、怖がらずに一人で希望してください。逆に、「友達が入るから入る」という学生にはハードなゼミになるようです。</p>
その他	<p>何か質問があれば、fukuda@k-kentan.ac.jpまでご連絡ください。直接研究室に来てもらっても構いません。お昼はほとんど生協で食べていますので、その時に質問して貰っても大丈夫です。</p>

船津ゼミ	
基本テーマ	<p>経済・社会を洞察する力を養うことが基本テーマです。そして、自分自身でテーマを見つけ、それについて調べ、調べたことを総合して論理的に考え、自分の調べたことや考えたことを説得力のある形で人に伝えられるようになることを目指します。卒業論文がその締めくくりとなります。卒業論文のテーマは社会に関することであれば基本的に自由です。僕の専門は財政学、地方財政論で、国際経済・社会に関することも研究テーマにしていますので、経済関連だけでなく、政治や社会問題に関することでも、また日本や国内の地域はもちろん外国や国際経済・社会を対象にしたテーマでも構いません。</p>
ゼミ運営方法	<p>基本テーマで書いたことを実現するために、本を読めるようになることと議論できるようになることを重視して運営します。演習Ⅰでは、まず、全員で共通の本を読みつつ、報告者が担当部分を報告し、みんなで議論するか、ゼミ生がそれぞれ自分で本を選び(難しすぎたり、簡単すぎたりしないよう、僕が相談に乗ります)、その本について報告者が報告し、みんなで議論するか、どちらかをベースにし、その上で、1ヶ月か2ヶ月に1度ディベート(討論)を行いたいと思います。ディベートは2つのチームを固定し、テーマもそれぞれのチームが交互に決める形を取りたいと思います。</p>
就職指導の方針	<p>ゼミ生の要望に沿って、ゼミ生を手伝うというのが基本です。具体的には、履歴書を書く時に相談に乗ったり、添削したり、面接の練習相手をしてアドバイスしたり、進学志望の学生の場合には、勉強方法についてアドバイスしたり、勉強会のような形で分からないこと等の質問に答えたりといったことをしています。就活のためにゼミ生に義務的に何かをさせるといったことはしません。</p>
卒論の要件	<p>分量としては、400字×20枚以上が基準です(ただし、本文は20枚未満でも、図表を多く用いる場合等もあり得ますので、あくまで一応の目安に過ぎません)。テーマは、前述のように社会に関することであれば基本的に自由です。過去の卒論のテーマには、鹿児島県財政、鹿児島県内の市町村合併(薩摩川内市、南九州市等)、地域経済の活性化(出水市の企業誘致、「さんふらわあ」の影響、天文館の活性化等)、雇用・労働(アルバイト雇用、派遣労働、高齢者雇用、外国人労働者、女性の就業率、奄美市の雇用)、観光(鹿児島県と熊本県や福岡県との比較、霧島等のジオパークの比較等)、地域防災計画(鹿児島市と宮崎市の比較)、テレビCMと企業の売上の関係性、企業の経営分析(路線バス、ブランド戦略、コンビニ間の比較、ユニクロの分析、楽天とアマゾンの比較)、スポーツ(日本のプロ野球球団、野球の独立リーグ、日本女子サッカーの分析)、NPOと行政の協働、ロンドンオリンピックから見る東京オリンピック等がありました。</p>
学生への要望	<p>現在の知識の量、勉強や読書の得意、不得意といったことは全く問いません。また、ゼミの議論では積極的に発言してもらいたいと思いますが、良いこと、賢そうなこと、感心してもらえるようなことを言おうとする必要は全くありません。しゃべることが得意でなくても構いませんから、自分が感じたこと、考えたことを素直に、出来るだけ分かりやすく伝えようとしてもらえれば十分です。その積み重ねが地力になっていくはずですよ。</p>
その他	<p>僕に実際に会ったり、話してゼミ選択の判断材料にしたいという方は遠慮なく声をかけてください。アポなしだと他の仕事等と重なる可能性もありますので、講義(日本経済論)やゼミ(基礎演習(二部)、演習Ⅱ(一部))の前後以外の時間ですとメールでアポイントメントをとってもらうのが確実だと思います。件名に「二部のゼミ選択について(自分の名字)」と入れてもらえると、スパムとの区別が付きやすく、助かります。数人一緒でも大丈夫です。気楽に声をかけてください。</p>